

令和元年度全国学力・学習状況調査 結果概要と改善策

「全国学力・学習状況調査」を4月18日（木）に実施（中3対象）しました。その結果をもとに、本校生徒の学力・学習状況の成果と課題について分析しましたのでお知らせします。今年度は数学と国語のテストにおいてA、Bがひとつになり、さらに英語のテストが行われました。この結果を踏まえて、学校全体でさらなる学力向上に向けた取組を推進していきたいと考えていますので、ご理解・ご協力の程、よろしくお願いいたします。

国 語	○成果が見られる・概ね達成している主な設問	
	出題の趣旨	評価の観点
	文章に表れている物の見方, 考え方について自分の考えをもつ…①	関心・読む
	書いた文を読み返し, 論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する	書く
	●課題が見られる主な設問	
	出題の趣旨	評価の観点
	文章の展開に即して情報を整理し, 内容を捉える	読む
	話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ…②	関心・話す・聞く
	<p>極端に正答率が高い問題や極端に低い問題がないので、領域による偏りはみられず、ある程度の読み取り能力や、記述能力は身に付いていると考えます。</p> <p>成果が見られた問題の①は、鑑賞文の記述問題です。無解答率が低く、本文を元に自分の感想を書く問題に対しては、苦手意識なく取り組めていました。しかし、同じ記述問題でも、やや難易度の高い②の問題に関しては、無解答率が高くなっています。ここから、難易度の高い記述問題に対しては、苦手意識があることが考えられ、学力、定着度に個人差が生じていることも考えられます。</p> <p>難易度の低い記述問題に多く取り組ませることで苦手意識をなくし、自分の解答に自信を付けさせるように取り組んでいきます。ご家庭でも新聞を読んだり、読書をしたりして、日ごろから活字に触れるとともに、文章の意図を読み取り、正しく表現する力を身に付けていけると良いと思います。</p>	

数 学	○成果が見られる・概ね達成している主な設問	
	出題の趣旨	評価の観点
	平行の意味を理解している	図形
	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している	図形
	反例の意味を理解している	図形
	●課題が見られる主な設問	
	出題の趣旨	評価の観点
	反比例の表から, XとYの関係を式で表すことができる	関数
	資料の傾向を的確に捉え, 判断の理由を数学的な表現を用いて説明できる	資料の活用
	<p>今回出題された数と式・図形の分野では正答率が比較的高く、9問中6問で半数以上の生徒が正しい答えを導き出していました。対して、関数・資料の活用の分野において正答率が低く、課題となっています。特に正答率の低かった問題は、関数の問題では、反比例についての表から式を導き出すことができずにいた生徒が多かったのと、資料の活用の問題で、ヒストグラムを読み取り特徴を記述式で答える問題でした。</p> <p>基本的な問題を数多くこなして、様々な問題傾向に対応することと、問題文や資料の意味をしっかりと理解し、順序立てて説明できる力が必要になっています。</p>	

英語	○成果が見られる・概ね達成している主な設問	
	出題の趣旨	評価の観点
	語と語の連結による音変化を捉えて、情報を正確に聞き取ることができる	聞くこと
	教室英語を理解して、情報を正確に聞き取ることができる	聞くこと
	まとまりのある話を聞いて、話の概要を理解できる	聞くこと
	●課題が見られる主な設問	
	出題の趣旨	評価の観点
	簡単な文で書かれた日常の話題を、正確に読み取ることができる	読むこと
	一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くことができる	書くこと
	月日に関する基本的な表現を理解して、応答することができる	話すこと
<p>聞くことを問う問題のうち、選択式の問題に関しては正答率は高かったのですが、記述式になると、より正確に内容を聞き取り、それに対して答えるという表現の能力が求められるため、正答率はさがりました。</p> <p>書くことの問題のうち短答式の問題では、3人称単数現在時制の文や過去時制の文を正確に書くことができない傾向が見られました。特に、一般動詞の活用で、三単現のsや過去形のedを動詞の語尾につけない生徒が多くいました。</p> <p>全国的な傾向ではあるが、話すことについては正答率が全5問とも低い結果となってしまいました。比較的易しい問題であっても、なんとなく内容を伝えることはできるが、正確さに欠ける傾向があったので、文法についてもしっかりと理解しておく必要があります。</p>		

全体を通して

昨年の全国学力学習状況調査の時にも書きましたが、教科書暗記型の学習に偏っている人はいないでしょうか？国語、数学、英語の3教科とも問題の意図を確実に理解し、しっかりと考え、順序立てて相手にわかりやすく表現する力が、共通の課題の一つとなっております。これは、昨年の3年生にもいえましたが、今年も同じ傾向が見られます。

学校では、「自分の学びを見つけ・試みる機会」を設けるため、放課後や長期休業中の学習会および学習相談会を実施しております。また、家庭学習や日常生活を通して物事を考えたり、疑問に思うことやはっきりと理解できないことを自分で調べるなど、考える癖を付けることも、学力向上の一步になると考えます。

